

盆・彼岸需要期を中心とした出荷量の拡大と 仏花以外の用途拡大による新たな需要の創出

活動期間：令和元年度～令和4年度

岩手県
【重点プロジェクト計画】

○ 岩手県のりんどうは、全国出荷量に占める本県シェアは約6割と全国一。H14をピークに減少し、需要期の出荷量は市場需要を満たしていない。りんどう生産者数は漸減しているが、1経営体当たりの栽培面積は増加。**生産部会活動が停滞し、産地の課題解決の取組が課題。**

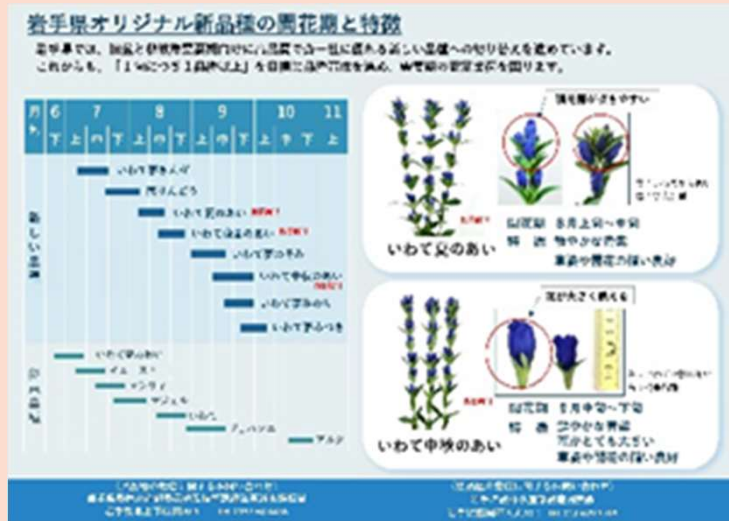
○このため、普及組織では、**りんどうの「新たな需要の創出」、「産地を牽引する中核的花き作経営体の育成」、「花き産地改革実践プランの策定及び取組支援」を実施。**

○その結果、**新品種「いわてEB-3号」を選抜。**鉢物用品種「**いわて八重の輝きブルー**」の特性を把握しマニュアルに栽培方法を追加。規模拡大志向生産者への支援により**6割が規模拡大。7産地で実践プランが策定・見直し。**

具体的な成果

1 新たな需要の創出

- 早生品種「いわてEB-3号」を選抜。新規栽培面積（R4：3.1ha）。
- 新品種PRリーフレットを作成。



2 中核的花き経営体の育成

- 品種構成の適正化、改植の履行
- ・ 経営規模拡大…モデル生産者の約6割が規模拡大達成
- 優良事例集の取りまとめと活用

3 「花き産地改革実践プラン」

- 個票整備、生産構造分析、栽培チェックシート等の調査を実施し現状を把握。
- 産地診断を実施し、花き産地改革実践プランの策定。
- ・ 6普及センター管内で策定

普及指導員の活動

令和元年～4年

- 新品種の現地特性評価を行うため、現地に**展示圃を設置し、現地評価会を開催。**
- **生産者向け現地見学会を開催。**
- 研究と連携し、**早生1系統を選抜。**
- **リーフレットを作成し、実需者に配布。**

- 各地域でモデル生産者を選定し、**個票分析による作付け計画を策定。**単年度ごとの個別目標を設定し、技術・経営指導を実施。**生産構造分析、栽培チェックシートを活用した現地指導**を実施。**優良事例集を作成。**

- 産地の現状把握、**産地診断を実施し、課題改解決策を部会で検討。**次期「**花き産地改革実践プラン**」を策定。産地維持に向け**新規栽培者の確保・育成を検討。**

普及指導員だからできたこと

- ・ 専門的な技術や知識を持つ農業革新支援専門員だからこそ、**新規導入品種を提案し、地域に適した栽培方法を確立し、「花き産地改革実践プラン」に対する支援が可能。**
- ・ 日頃から連携している、県の研究機関を始め、先進農業者、JA、市町村、県行政等の**関係機関を結び付け、新たな需要拡大に向けた産地全体の取組を進めることができた。**

岩手県

盆・彼岸需要期を中心とした出荷量の拡大と仏花以外の用途拡大による新たな需要の創出

活動期間：令和1～4年度

1. 取組の背景

りんどうは、全国出荷量に占める本県シェアは約6割と全国一であるが、H14をピークに減少し、需要期の出荷量は市場需要を満たしていない。

また、りんどう生産者数は漸減しているが、1経営体当たりの栽培面積は増加している。さらに、生産部会活動が停滞し、産地の課題解決の取組が十分に行われていない事例がみられる。このため、需要期を中心とした出荷量の増加が課題である。さらに、産地を牽引する中核経営体の育成と生産部会の取組支援が必要である。

目指すべき姿として、りんどうの需要期を中心とした安定供給が図られるとともに、新たな需要が創出されて、生産基盤がより強固となる取り組みにより、りんどう産地を牽引する中核的な花き作経営体が育成されることは地域の重要課題である。よって、重点プロジェクト計画として取り組むこととした。

2. 活動内容（詳細）

(1) 盆・彼岸需要期を中心とした出荷量の拡大と仏花以外の用途拡大による新たな需要の創出（R1～4）

ア. 新品種の現地特性評価

- ・県育成の有望系統の展示圃を各地域に設置し、現地適応性を評価した。
- ・県の品種育成に実需者や生産者の意見を取り入れるために現地評価会を開催した。

イ. 新品種の現地見学会、研修会等開催による導入推進

- ・展示圃を活用し、生産者向けの現地見学会や切花展示を実施した。

ウ. 新品種の栽培方法(株仕立て方法等)の検討

- ・切花用品種「いわてEB-2号」の適正な株仕立て本数を検討した。
- ・鉢物用品種「いわて八重の輝きブルー」の現地での栽培状況を調査し、品種特性を把握した。

エ. 実需者、消費者を対象とした新品種に対する意見集約と購買促進

- ・実需者向けに新品種PR用リーフレットを作成した。

(2) りんどう産地を牽引する中核的花き作経営体の育成（R1～4）

- ・各地域でモデル生産者を選定し、個票分析による作付計画を策定した。
- ・モデル生産者と単年度の個別目標（出荷量、単収）を設定し、技術指導や経営指導を実施した。

(3) 「花き産地改革実践プラン」の策定及び取組支援（R1～4）

- ・各地域で個票整備、生産構造分析、栽培チェックシート等調査を実施し、産地の現状を把握した。産地診断等を行い部会で課題解決策を検討した。
- ・課題解決策の実践と実践結果に基づき次年度の実践プランを見直した。
- ・産地維持のための新規栽培者の確保、育成の取組み内容について普及センターと検討した。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 盆・彼岸需要期を中心とした出荷量の拡大と仏花以外の用途拡大による新たな需要の創出

ア. 新品種の現地特性評価

- ・盆需要期向けの早生1系統を選抜し、新品種「いわてEB-3号」として成果公表された。その他有望な系統を選抜した。

イ. 新品種の現地見学会、研修会等開催による導入推進

- ・新品種「いわてEB-3号」の認知度が向上し、種子供給初年目から目標以上の作付面積を達成、累積目標作付面積の3.0haに対し3.1haとなった。

ウ. 新品種の栽培方法(株仕立て方法等)の検討

- ・栽培実証や生花市場へアンケート調査を実施し、「いわてEB-2号」は慣行より多立茎栽培することで増収、増益となる効果を確認した。
- ・「いわて八重の輝きブルー」品種特性を把握し、特性を生かした省力的な栽培法を栽培マニュアルに追加した。

エ. 実需者、消費者を対象とした新品種に対する意見集約と購買促進

- ・実需者向けに新品種PR用リーフレットを市場や県外の県産花きフェアで配布した。普及センターでは生産者向けの品種紹介資料として活用した。

(2) りんどう産地を牽引する中核的花き作経営体の育成

- ・品種構成の適正化や改植の履行、管理作業の改善を図ることで、モデル経営体のうち約6割の経営体が規模拡大につながった。
- ・優良事例をまとめた活動事例集を作成し各普及センターに配布した。

(3) 「花き産地改革実践プラン」の策定及び取組支援

- ・各地域で産地の現状分析を基に産地診断等を実施し、部会で課題解決策を検討、実践した。6普及センター管内で実践プランの見直しを行った。

4. 農家等からの評価・コメント（実需者、JA等）

りんどう有望系統現地評価会参加者から、これまで育成途中の系統を直接目にする機会がなかったため、県の品種育成の状況がわかり参加してよかったとの感想が聞かれた。他にも「初めて八重咲を見た」「青以外に様々な花色の系統が育成途中にあることを知り驚いた」などの感想や、「切り花

向け八重咲品種に従来の草丈は不要である。今回展示された系統で十分有望なので品種化してはどうか」との提言をいただいた。

5. 普及指導員のコメント（農業普及技術課・上席農業普及員・梅澤学）

生産者が減少する中、需要期に安定して出荷するためには、需要期に開花する品種への改植、多収技術の導入、生産者への規模拡大が必要である。これまでの試験研究機関や普及センターと連携した取組より、盆需要期向けの新品种の普及や生産者の規模拡大が進みつつあるが、今後も取組みを継続し、産地の生産基盤の強化に取り組んでいく。

6. 現状・今後の展開等

新品种の有望系統においては、引き続き現地特性評価を継続調査し、各地域での特性の把握に努める。また、品種特性に合わせた栽培法を引き続き検討し、多立茎栽培などの多収技術導入による経営の安定化をすすめる。

実需者を対象とした新品种に対する意見集約と購買促進に対して、新品种PRリーフレットを活用し、新品种の認知度を高め消費拡大につなげる。

りんどう産地を牽引する中核的花き作経営体の育成については、目標未達成者を更にフォローアップし、要因解析と改善策の提案を行っていく。

実践プランの策定・見直しは、関係機関・団体等の協力のもと、継続的な部会支援を行い実践プランの実現を支援する。



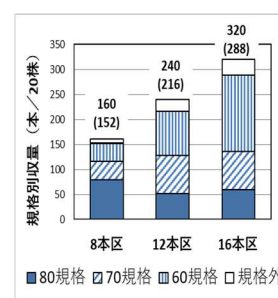
図 新品种PR用リーフレット



りんどう有望系統現地評価会



生花市場での切花サンプル展示



多立茎栽培実証成績